

2011年1月1日  
新春号(第12号)

# ゆ と び や 湯 戸 飛 夜 い け い け だ よ り



Jinen Joe

発行 西徳山まちづくりの会

## 記事:

- 新しい年を迎えて
- “ウソップ物語 Part ”の実現を目指して
- 第14回西徳山いけいけフェスタ盛會裡に終了
- 行ってきました「道の駅研修旅行」
- 「戸田駅開設100周年へ向けて」！その3
- シリーズ「名所・旧跡めぐり」四郎谷の“天野屋利兵衛生誕の碑”
- 「花とみどり地域リーダー養成講座」に参加しました
- 戸田からし漬けを復活させる
- お知らせ

## 会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時会員を募集しています。

## 連絡先:

(0834)63-3770  
(神本)まで

## 新しい年を迎えて 私たちの抱負 -

西徳山まちづくりの会が発足して15年、皆様のご協力と励ましを受け、労を惜しまない会員の活動で戸田駅は花の駅となり、今年で百歳を迎えました。私達の活動は新しい基本構想の作成、発表、道の駅との関わり、研修旅行その他魅力あるまちづくり活動に取り組んでいます。

今年は百歳をお祝いすると共に、うさぎのようにホップ！ステップ！ジャンプ！飛躍の年にしたいと思います。皆様のご参加お待ちしております。

(酒井昭子)



戸田駅開設100周年をお祝いして感謝状！

## “ウソップ物語 Part ”の実現を目指して

向こう10年間の西徳山まちづくりの会の活動指針である「ウソップ物語パート」の内容の一部をかいつまんでお知らせします。

1. 戸田駅を中心とした活動を継続する  
私たちの活動の原点である戸田駅前の整備に、引き続き取り組んでいきます。  
1年を通じて花のある駅前風景、つまり花の駅を目指します。  
道の駅実証店舗「ゆーとぴや」と協力してイベントなどをします。  
「いけいけフェスタ」は引き続いて実施します。
2. 西徳山の発展を目指した新たな活動に取り組む  
観光資源を十分活用して、新たな活動の展開を模索します。  
西徳山の環境問題に対しても、私たちが取り組むことができることは何なのかを探ります。

そんなに遠くない将来、私たちが迎えるであろう老後の暮らしが、より快適にできるような環境づくりについて考えます。

3. 「西部道の駅」を拠点とした活動に取り組む  
建設が予定されている「西部道の駅」の運営に協力します。  
特産品の開発やイベントの共催などを考えています。
4. 交流・研修活動に取り組む  
生涯学習としてのまちづくりという観点から、常に交流や研修を念頭に入れて活動します。

以上が私たちの今後10年間の活動指針の一端です。詳しくは「湯戸飛夜基本構想」ウソップ物語パートという冊子をご覧くださいと思います。現在、その冊子の編集に追われていまして、今年の3月頃には完成できる見通しです。

## 第14回西徳山いけいけフェスタ盛会裡に終了

6,000人が楽しみました



## 行ってきました「道の駅研修旅行」

12月4日6時50分、まだ暗いなか九州へ向けて出発しました。そして最初の目的地である佐賀県大町、農事組合法人「工房ひじり」に到着です。おおまち情報プラザ内の店舗で視察、買い物！！そのあと代表の亀川智枝さんの話を聞かせていただきました。農家の主婦6人で始めた設立のいきさつ、その後の販路開拓話など、佐賀弁でとつとつと話され、明るくバイタリティあふれる人柄で、大変な苦勞があったと思われるのに、それを少しも感じさせない方でした。味噌、漬物を中心に加工品も色々あり、特にかりんとうは種類も多く皆沢山買っていきました。

もう昼食の時間です。国道34号線沿い武雄温泉観光物産館の中にある「おっ母さんの一膳めし屋」で食事です。農家のお母さんが、地場産の食

材を使って作る季節感たっぷりのメニューを、セルフ方式でいただきました。野菜の煮物、きんぴらごぼうなどとてもおいしかったです。最後に、道の駅大和・農事組合法人「そよかぜ館」に立ち寄りました。嘉瀬川ぞいで景色のよいところでした。

楽しく有意義な旅行もう帰らねば。定刻には戸田駅につきました。皆様、お疲れ様でした。お世話になりました。



「おっ母さんの一膳めし屋」の季節感たっぷりのメニュー。

あー美味しかった！！

## 「戸田駅開設100周年」へ向けて！（その3）

～ 誇り高き国鉄マン 第23代戸田駅長 河本正男さん(戸田) ～

1枚の古い印刷された紙を前にして、話が弾みました。

それは、大正8年8月の戸田駅発車時刻表で、国鉄ではなく鉄道院だった時代のものです。表題は横書きで右から左へ「表間時車発駅田戸線陽山」。上り下りそれぞれ7本ずつの汽車があったようです。行き先はというと、上りは京都・東京、下りは下関ですから汽車は延々と東京まで走り続けたのでしょ。

戸田駅には今の特急にあたる最急や急行にあたる急客が停車していたことが読み取れます。鉄道マニア垂涎のこの時間表は、河本さんのお宝です。

河本さんは芸備線(広島県)の下深川の駅長などを歴任され、昭和52年2月から昭和54年3月に定年退職されるまで戸田駅の駅長を務めました。

当時の戸田駅の駅員さんは

「私が駅長だった時は、職員が12名いました。それでも小荷物を扱わなくなったので減員されたのです。助役3名体制で交代勤務をしていました。」

当時の戸田駅前

「昭和52年当時、国道2号の拡幅が行われていて、駅前にあった民家の移転が行われ、ごたごたしていたのを覚えています。」

つらかった事は

「国鉄の赤字体質がずっと続いていて、とにかく収入を上げることを強いられました。指定券や特急



大正8年8月の戸田駅発車時刻表



駅長時代の帽子をかぶった河本さん

券の販売はもとより、団体客の獲得に戸田、湯野、島地などを営業して歩きました。三社詣りや初午詣でなどのお客さんも募集したりしました。」

思い出は

「職員は電車が着いたら、へた～、へた～と駅名を叫んで歩くのです。駅名喚呼というのですが、何しろ駅名が“へた”ですから、職員が叫ぶのを嫌がったりしました。」

退職後は「まちの駅長さん」としてJRに協力したり、鉄道OB会などに参加されたりしてきました。その当時の国鉄は、あまりに過酷な労働なので、55歳定年後、5年しか持たないといわれていたようです。河本さんは現在87歳。とても元気、グランドゴルフを楽しんでおられます。

インタビューの終わりに、河本さんは

「戸田駅を拠点として活動されているまちづくりの会の皆さんのお手伝いができなくて、残念です。」と話されました。

そんなことはありませんよ。あなたは定年後、地区のために十分活躍され、貢献されてこられました。河本さんが話をされた後ろの壁には、市教育委員会の地区体育振興の推進の功績に対する感謝状が、ピカピカと光り輝いていました。これからのますますのご活躍をお祈りします。

## 西徳山まちづくりの会

編集後記

インターネットの普及で、バーチャルなどといった疑似体験が可能になってきています。私たちは、ひとつの事柄についても、パソコンを通じてある程度のことは知ることができるし、また十分知った気分になっていることもあります。しかし、それはほんの薄っぺらな知識なのです。

人に出会って実際に話してみ、貴重な体験を聞きだしたり、人となりを肌で感じたりすることの大切さを、元戸田駅長の河本さんへのインタビューで改めて感じました。

また、四郎谷の天野屋利兵衛誕生地を訪れて、地理を確認し地形を眺めることによって、「なるほど、利兵衛はここから風待ちの船に乗せてもらって上方へ行ったのであろう」と思いを馳せると、その信憑性が増してきました。

やはり、取材は現場を歩いて、見て、聞いて確かめることで説得力のある文章が書けるということを痛感しました。

生きていくうえでも、現場できちんと体感することが大切なことではないでしょうか。

智は現場にあり。百聞は一見に如かず。

編集長 神本康雅

発行責任者

会長 酒井昭子

広報部長 石田真理子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

www.nishi-

tokuyama.gn.to

シリーズ「名所・旧跡めぐり」

## 四郎谷の“天野屋利兵衛誕生の碑”

「天野屋利兵衛は男でござる」と役人に啖呵を切った天野屋利兵衛は赤穂浪士討ち入りの影の英雄として知られ、周南市戸田四郎谷に生まれたとされています。



天野屋利兵衛誕生の碑

## 「花とみどりの地域リーダー養成講座」

に参加しました



まちづくりの会のメンバ - 2人が、6月～10月、5回シリーズの講座に参加しました。土づくり・肥料の使い方などの勉強から、花壇作り・花の種まき・寄せ植えの実習を楽しく経験しました。今、戸田駅周辺に植えてあるパンジ - はその成果です。どうかきれいに咲いてくれますように！

## 「戸田からし漬け」を復活させる

特産品加工部会報告

以前、戸田地区には「戸田のからし漬け」がありました。みなさんにもご記憶があると思います。

まちづくりの会の会員を中心に茄子のできる間、何回もつくり試食してもらい、加工品として復活しました。試食では評判もよく、特に男性に好まれています。今年の茄子の出来る頃には、皆様にお届け出来ると思います。



試食風景

## お知らせ

西徳山まちづくりの会 全体会

原則として毎月1日および16日の19:30から夜市公民館で開催します。興味のある方は遠慮なくご参加ください。